

施策番号 3-3-2	施策名	高齢者福祉の充実	基本目標	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり		
	政策名		政策名	住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実		
	主管課	高齢者支援課	課長名	久保 禎巳	内線	154
	施策関係課	健康福祉課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
高齢者の健康づくりや社会参加を推進し、住み慣れた地域で自分らしく安心して生活できるよう適切なサービスを提供します。		高齢者(65歳以上)		・社会参加(介護予防)と心身の健康の維持を推進する ・介護が必要になっても住み続けられる環境づくりを推進する ・重度化防止、自立支援に向けた介護基盤の整備を推進する				高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 高齢者にとって暮らしやすいまちだと思う市民の割合	住民意識調査	%	66.6(R3)	65.9				72.0	
② やりがいのある趣味や運動、仕事に取り組んでいる高齢者の割合	住民意識調査	%	68.9(R3)	70.6				75.0	
③ 芽室町の福祉サービスに満足している高齢者の割合	住民意識調査	%	71.4(R3)	78.8				77.2	
成果指標設定の考え方	① 市民が感じている高齢者の暮らしやすさは、本施策の指標となることから設定。 ② 活動的な高齢者の割合が増えることが介護予防につながるから設定。 ③ 町内で提供される福祉サービスに対する高齢者の満足度を捕捉する必要があるため設定。 各成果指標とも策定時の数値を上回ることを目指し目標値を設定。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費(千円)	1,903,561	1,987,613			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 2023年度の成果評価(基準年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①は、70代以上の方の満足度は高いものの50・60代が低い傾向にあり、将来車を手放した場合の移動手段に不安を持つ方が多いこと、②・③は介護・医療施設によるサービス提供のほか、介護予防事業や高齢者団体への活動支援等により向上したと捉えている。
② 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①は、70代以上の方の満足度は高いものの50・60代が低い傾向にあることから、将来に対する不安が影響しているものと考えている。介護保険制度や介護予防の理解を求める活動や、介護サービス体制の維持を図ることにより、成果指標の向上を図ることが出来る。 ②は、介護予防体制の充実、高齢者団体への活動支援等に取り組んでいることから策定時より向上。各事業の充実を図っているため、更に向上すると見込んでいる。 ③は、安定した介護基盤を支える介護保険制度、在宅介護を支える施策、介護予防の取り組みが評価されたと考えている。
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	支え合いの町づくり人材育成事業 地域包括ケアシステム推進事業 介護予防教室開催事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	・「支え合いの町づくり人材育成事業」～介護サービス安定化のための人材確保や育成のみならず、教育分野や各種団体へ介護事業の必要性について理解を求める取り組みや、学生の介護現場を経験できる等、事業拡大が図られた。 ・「地域包括ケアシステム推進事業」～地域包括支援センターの委託化に伴い、職員による高齢者を取り巻く課題の変化や問題の早期発見、複雑化した対応に向けた取り組みが強化された。 ・「介護予防教室開催事業」～気軽に通える介護予防教室を導入したことにより、住民主体の通いの場から送迎付きの介護予防教室まで、高齢者の心身の状況が変化しても途切れることなく支援する体制を整えた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	介護人材を確保する体制づくりが進み、相談体制の強化により高齢者の状況に応じた適切な介護サービスの提供が図られた。また、介護予防事業の拡充や介護予防の重要性を啓蒙する活動を通じ、高齢者の健康づくりや社会参加が進んだと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ・高齢者人口の増加、人口減少、世帯構造や家族の関係性の変化 ・介護基盤を担う人材確保の深刻化 ・感染症対策の長期化による施設の負担 《今後の予測》 ・高齢者人口増加に伴い介護サービス需要の増加(在宅サービス、移動手段) ・人口減少や世帯構造の変化に伴う複雑化する問題の増加(成年後見制度利用の増加) ・現役世代減少に伴う、安定した介護保険制度の継続(介護保険料、適正給付、健康寿命の延伸)や、人的基盤確保への一層の対応
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	審議会から: 介護予防の取組みや高齢者の社会参加の機会充実について意見がある。一身体状況や認知機能の把握を促す取組みや、生活支援コーディネーターの活動により社会参加の活動を支援した。 審議会から: 除雪サービス事業について除雪する幅について意見がある。→日常生活や緊急時の経路の確保として最低限必要な1メートルを基準としている。除雪支援者が自宅や職場の他に本事業を担っていることを考慮し現行が適切と考える。(間口除雪の対応) 介護事業者から: 介護人材の確保に非常に苦労していることや、冷房設備設置の支援について意見がある。→介護人材の確保に向けて多面的な取組み(学生の介護現場経験など。)を展開し、冷房設備の設置に助成を行う。 議会・審議会から: 高齢者の移動手段について意見がある。→本町の地域公共交通のあり方については、本町独自の取組みについて実証実験を行うなど検討し、じゃがバス運行のほか事情に応じてタクシー運賃の助成を実施。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<p>多くの町民の共通の願いである「できる限り住み慣れた地域で暮らしたい」ことの実現のため、「介護予防と生活支援、介護・医療・住まい」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の推進を図るため、特に次の事業について取り組みを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な介護保険サービス提供に不可欠な介護人材を確保する取り組み ・成年後見中核機関の設置 ・高齢者見守り支援事業の充実 ・「まる元」運動教室をはじめとした切れ目のない介護予防事業の実施と更なる展開 ・健康状態不明者等、潜在する支援が必要な方への訪問による、社会参加促進及び孤立化防止 ・社会的支援を要する制度の狭間にある困難ケース増加への対応 ・自治体DX推進構想に基づく、デジタル技術の活用

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した
 B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
 C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
 E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した
 B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
 C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
 E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した